

式辞（生命環境学部・大学院：於 庄原キャンパス）

春の日を 一日眠る 子猫かな

卒業生のご家族の皆様方、関係者の皆様方、お子様が、この正岡子規の俳句の子猫のように、あどけなく寝ているかと思えば、

春風に顔ならべけり燕の子(子規)

ピーピーと大きな口を開けて、食べ物をせがむ燕の子のように、お腹をすかせて、食事をせがんだこともありましたでしょう。このように可愛く幼かったときは、昨日のことのようでしょう。そのお子様が、立派に卒業論文も書き、本日、大学の卒業式を迎えておられます。心からお祝い申し上げます。

卒業生の皆様、皆様は、大事に育てられました。そして、今日めでたくご卒業の日を迎えたのです。おめでとうございます。

ご来賓の方々におかれましては、ご多忙のなか、本学の卒業式にわざわざご光臨賜りましたことに、卒業生とともに、衷心より感謝申し上げます。そして、いつも変わらぬご支援に厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、ご卒業の皆様、あなた方は、素晴らし山河の、いい大学で学ばれましたから自信をもって、ご活躍ください。まず、研究ですが、各大学の研究力を示すよい指標として科学研究費補助金があります。

（これ以降は広島キャンパスでの式辞とほぼ同文です。同文の部分は省略します。）

さて、ご卒業にあたって、餞の言葉をお贈りしたいと思います。

（これ以降は広島キャンパスでの式辞とほぼ同文です。同文の部分は省略します。）

さて、この『風は山河より』は、上に述べたように、それぞれの土地には宿る力があり、それが、人や文化を育むとしています。

しかし、県北も広島も、三河に勝るとも劣らぬ素晴らしいものを育んできました。フランスのノーベル文学賞作家ロマン・ロランが絶賛した「出家とその弟子」を著した倉田百三は庄原出身で、同氏については、皆様は何度も本学の馬本准教授からお聞きでしょうから、これだけにし、布野村（現在三次市）の中村憲吉についてお話しします。

憲吉氏は、正岡子規の根岸会を継承した「アララギ派」の重鎮で、アララギ派は、平安時代から明治初年までの古今・新古今調の和歌を、万葉調と写実を基本に改革し、短歌の本流となりましたが、

(これ以降の部分広島キャンパスの式辞とほぼ同文です。省略。)

平安時代以来の和歌を、明治末から大正時代に近代短歌に変えたのですから、アララギは1000年に一度の大改革をしたのですが、その中心人物を東北は育んだのです。

庄原で学んだ皆様がたは、この点も誇りにしていただきたいのですが、皆様方がこれから行かれる土地や勤務先も、必ず素晴らしいものを持っています。なぜなら、人を惹きつける素晴らしいものがなければ、何年、何十年にもわたって人が集まり続けるはずがありません。雲散霧消するはずです。ですから、皆様は、行った土地、勤務先に必ずあるはずのいい点、優れた点を見つけて、それを誇りにしてください。土地や組織に宿る力が、きっと皆様に、幸運をもたらします。

しかし、新しい土地、新しい組織は、なじみが少ないので、従来と違うことが目につき、違和感を持ちます。そして、この土地はここがおかしい、この組織はここが悪いと、つい批判をします。しかし、土地や組織を悪く言うと、土地に宿る力も、組織に宿る力も、皆様を受け入れないでしょう。そして、幸運は飛び去るでしょう。皆様は、土地や組織の良い点を見つけて褒め、いい人生をお送りください。

お祝いの言葉を結ぶにあたり、堀辰雄の言葉をあげ、皆様の門出を祝いたいと思います。

風立ちぬ、いざ生きめやも。

風立ちぬ、いざ生きめやも。

本日は、本当におめでとうございます。

平成 22 年 3 月 23 日

県立広島大学 学長 赤 岡 功